

ばんけい

教育ほんといっしょ

かわら版

こみち
教育の小径 No.110

2017 December

12月号



国士舘大学教授
北 俊夫先生



今月のことば

さほう ろうかく
砂上の楼閣

● 砂上に建てた重層の建物は不安定で、崩れるおそれがあります。基礎がしっかりしていないため、物事が長続きしなかったり、計画が実現できなかったりすることがあります。のたとえです。

学び合いの意義とは何か

- 子どもたちは友だちと関わり合いながら学びを深めていきます。そこでは、学び合いをとおして、社会の形成者として求められる資質・能力を身につけます。
- 学び合いを充実させるポイントは、言語活動を重視し、グループでの作業や学級での討論など、協働的な活動を取り入れることです。

なぜ、学び合いなのか

学び合いとは、友だちと関わり合いながら学びを深めていくことです。関わり合いとは、考えなどの違いを互いに認め合うことであり、つまづいている友だちを支えることです。そして共に高め合っていくことです。

学校生活において、子どもたちの学び合いを重視したい理由には、次のようなことがあります。

まず、友だちの多様な考えや考え方を知ることにより、それらに学びながら自分の考えなどをより豊かなものに高めることができます。自分の考えていたことや理解していたこととの違いが自己を高める貴重な教材になります。ここには、学びの質を向上させるとともに、自己を確立させるという重要な意義があります。

次に、学び合う行為は、友だちなどとコミュニケーションを取りながら意思や活動の相互交流を行うことです。対話的な学びをとおして相互に理解し合い、他者との関わりを深めていきます。学び合いには他者との信頼関係や人間関係を構築できるところにも意義があります。さらに、学び合いは社会の形成者を育成することとも深く関わっています。学校や学級は多様な友だち

で構成されており、「小さな社会」と言われています。

学級での学び合い活動をおとして協力し合うことの大切さや多様な意見を調整する能力、相手を説得する能力、違いを受け入れる広い心など、さまざまな資質・能力を養うことができます。これらの資質・能力は社会人として生きていくために必要なものです。

学び合いによって、一人一人の学びを深まりのあるものにするとともに、多様な他者と関わる力を育て、社会人として必要な資質・能力を養うことができます。教師が学び合いの意義をどのように受けとめるかによって、そのための手だても変わってきます。

学び合いをどうつくるか

子どもたちに学び合いを体験させるためには、友だちと関わり合う場を設ける必要があります。一人学びだけでは学び合いは成立しません。

学び合いにとって不可欠な手段は言語であり、協働的な活動です。まず、言語に関する能力は、単に話し方や聞き方など技能的なことだけでなく、発言などの内容が重要になります。発言内容に対して称賛する、共感する、励ます、受容する、指摘するなどポジティブな対応ができるようにします。教師

は友だちの発言の受けとめ方や関わり方を指導することによって、授業の質を高めることができます。

また、協働的な活動はグループで意見の交換をするだけでなく、共同作業（グループワーク）に取り組む、一つの考えにまとめる、分担して発表するなど、子どもが関わり合う場です。特定の子もだけが活躍することがないよう、一人一人に出番をつくります。

さらに、学級全体で話し合う場をつくります。ここでは、単に考えを発表することや伝え合うことだけでなく、討論や議論を促します。議論は意見や情報を交換や交流するだけでなく、子どもたちに思考を促し理解を深める機会になります。

そのためには、多様な意見が出されるようなテーマを設定します。例えば「農家の人はミカンをどのように作っていますか」といった事実を確かめるテーマよりも、「まだ実っていない緑色のミカンをとっているのはどうしてでしょうか」と、疑問詞を含めたテーマのほうが子どもたちの思考をゆさぶり、多様な考えを引き出すことができます。論理的な思考も求められ、思考力をはぐくむ機会にもなります。

学び合いは学校ならではの学びのスタイルです。日々の授業の中核に位置づけ、授業の充実を図りたいものです。

今月の
記念日百円玉の日
(12月11日)

坂垣退助の肖像が描かれた百円札に替わって、鳳凰がデザインされた百円玉銀貨が発行されたのが、昭和32年（1957年）のこの日です。デザインはその後、稲穂になり、現在の桜に変わりました。

喧嘩が始まったとき

休み時間に教室で子ども同士が取っ組み合いの喧嘩を始めました。周りの子どもたちも騒ぎ、收拾がつかなくなりました。どのように対処したらよいのでしょうか。

子どもたちの世界に喧嘩はつきものです。かつてほど見られなくなったようですが、特にギャングエイジと言われる中学年ではたびたび遭遇します。喧嘩には主として取っ組み合いの喧嘩と口喧嘩があります。

取っ組み合いの喧嘩はけがをしたり周囲の物を壊したりすることもありますから、中に入って即座に制止します。棒などの器物を持っている場合には慎重に対処します。喧嘩をしている当事者は興奮していることが多いですから、心を落ち着かせるように優しくゆっくりとした口調で話しかけます。

周囲の子どもたちには、自分の席に戻って座るように指導します。とにかく落ち着かせ、その場の騒々しい雰囲気や和らげることがポイントです。

落ち着いたところで、喧嘩の当事者から原因や理由を聞きます。教師が先入観をもって接することは禁物です。周囲にいた子どもから状況を聞くこともあります。相手の心を傷つけたなど望ましくない言動が原因の場合には、心から納得するように、当事者の立場や考えを受けとめながら時間をとってじっくり諭します。頭ごなしに厳しく注意しても効果は期待できません。

收拾したあとには、学年会などで事のいきさつを報告します。当事者の保護者にも状況とともに、担任がとった指導の内容や今後のことを伝えます。

教育の動向

校舎・体育館の施設老朽化

公立小中学校では予算的な措置もあり、耐震化工事が進んできました。ほとんどの校舎で倒壊の危険がかなり低くなりました。

一方、文部科学省の調査によって、全国の公立小中学校の校舎や体育館など施設面の改修は進んでいないことが明らかになりました。ここでいう施設とは、天井板やコンクリート壁、トイレなどのことです。建物そのものではありません。地震で体育館などの天井の板が落ちたというニュースを聞いたことがあります。

昭和45年ごろ（1970年前半）

には、児童生徒の増加に対応して、多くの校舎が建てられました。それらの校舎などの施設がまもなく45年を迎えます。その割合は全体の約67%を占めるとの数字もあがっています。

平成28年4月の時点で、校舎や体育館など施設の14%が建てられてから45年に達しているそうです。文部科学省は、これまでの実績から45年を建て替えの目安としています。改修が必要な施設の81%が改修されないままになっているといいます。

小中学校は、地震などの災害発生時に避難場所として機能します。子どもたちが安心して学べるようにするとともに、災害発生時に安心して使用することができるように、学校施設の老朽化対策が早急に求められます。

シリーズ 新学習指導要領のキーワード解説 その2

社会に開かれた教育課程

このキーワードは、今回の学習指導要領に初めて設けられた前文に登場しています。ここでは、教育の「理念を学校と社会とが共有し」、「社会との連携及び協働により実現を図る」としています。ここでいう理念とは「よりよい学校教育を通してよりよい社会を創る」ということです。

このことは、学校は持続可能なよりよい社会の創り手を育てるための準備教育を行う場であるという、学校教育の役割を明確にしたものです。すなわち、学校教育は社会の担い手を育てることをとおして、よりよい社会を創ることに貢献するということです。

これまで地域社会と一体に教育活動を展開し、保護者や地域住民から学校評価を受ける仕組みを構築してきま

した。これからは、地域の担い手を育てるため、子どもたちが地域の課題を見だし解決策を地域に発信するなど、地域社会に貢献し参画する取り組みを重視し、学校と社会との結びつきをさらに強化します。これは学校教育の役割を空間軸からとらえたものです。

学校で子どもたちをどこまで育てるのかといった、学校教育の出口、すなわち社会への入口を意識した取り組みも求められます。小学校においても、将来よりよい社会の形成に参加・参画する人間をいま育てているという認識をもつことです。これは学校教育の役割を時間軸でとらえることです。

社会に開かれた教育課程を編成し、理念を実現させるためには、「開かれた」という意味合いをいまの社会と将来の社会という2つの軸から捉えることがポイントではないかと考えます。

INFORMATION

冬休みからのしあげ教材のご紹介



教科別分冊タイプ

0年へGO 1・2年 国語・算数・漢字計算
3～6年 国語・算数・理科・社会
漢字計算

国語・算数のしあげ

これでだいじょうぶ 1～6年

国語・算数・理科・社会のしあげ

これで完ぺき! 3～6年

NEW 4教科 充実の復習ページ

パーフェクト 5・6年

編集後記

妻と喧嘩が始まったときは沈黙することが一番良いと思っていましたが、心を落ち着かせて相手の話を聞くことも大切ですね。忘年会のシーズンを迎えました。今年、今年を振り返り、来年に活かしていきたいと思えます。(K記)

企画・編集：ぶんげい教育研究所
発行：株式会社文溪堂
発行日：2017年12月1日